

ESMPRO/ServerManager Ver. 6 変更履歴

[Ver. 6.37]

- ・ iLO 搭載装置において、ESMPRO/ServerManager の IML 監視機能を利用して Non-RAID 構成のディスクの障害を通報できるよう機能強化しました。
- ・ ESMPRO/ServerManager が使用している Apache Struts を Apache Struts 2.5.17 に更新しました。
- ・ ブラウザーが使用する Java が Java アプレットをサポートしていない場合でも、以下の機能が使用できるようにしました。
 - BMC 設定のリストア機能
- ・ ESMPRO/ServerManager でシステム管理(WS-Man)をしているサーバの DC-OFF 時間が 70 分以上あった場合、該当サーバが DC-ON 後にアラート送信できない場合がある問題に対応しました。
- ・ ESMPRO/ServerManager を Ver.6.37 へアップデートインストールした後に、ESMPRO/ServerAgentService(Linux 版)からの CIM Indication 通報を正常に受信できない不具合を修正しました。

※ESMPRO/ServerAgentService(Windows 版)、及び、ESXi サーバからの CIM Indication 通報は問題ありません。

※ESMPRO/ServerManager Ver.6.37 を新規インストールした場合は問題ありません。

[Ver. 6.33]

- ・ ESMPRO/ServerManager (Ver.6.31 以降) において、VMware ESXi6.7 の管理が可能になりました。
- ・ アラートビューアのフィルター機能として以下を追加しました。
 - 任意の条件をフィルターとして保存できるようになりました。
作成したフィルタは、編集・削除・初期値設定の操作が可能です。
 - 任意のフィルターによって、アラートの表示または非表示の条件を切り替えできるようになりました。
 - 任意のフィルターによって、新着アラート検出時に表示される通知メッセージの表示可否の条件を切り替えできるようになりました。
- ・ iLO 搭載サーバに対して、以下の機能を強化しました。
 - iLO へのログイン機能で、シングルサインオンをサポートしました。
 - 構成情報に Fibre Channel 情報表示を追加しました。
 - ESXi サーバで iLO 管理有効の場合、構成情報のネットワーク表示項目にステータス情報を表示するように対応しました。

- リモートバッチ機能で iLO 管理有効のコンポーネントに対して
スケジュールを登録できるように対応しました。
- ・ Apache Struts2 のバージョンを Struts2.3.35 に更新して、脆弱性(S2-057/CVE-2018-11776)の対応を行いました。
- ・ Apache Tomcat のバージョンを 8.0.53 に更新して、脆弱性(CVE-2018-1336)の対応を行いました。

[Ver. 6.31]

- ・ iLO 搭載機(R3310f, R3320f, R3510e, R3520e, T3350f)にて、Starter Pack S8.11-004.01 (iLO FW 1.35/1.38)に対応しました。Stater Pack は以下の URL から入手してください。
<http://www.toshiba-sol.co.jp/pro/magnia/tech/starterpack.htm>
- ・ RAID コントローラ(TN8103-205T/206T/207T/208T/210T/211T)の管理をサポートしました。

[Ver. 6.30]

- ・ 構成情報(ストレージ)表示[iLO 搭載サーバ]対応しました。
一般情報の詳細画面のキャッシュ情報、ストレージエンクロージャ、バッテリー表示に対応しました。
- ・ IML 監視[iLO 搭載サーバ]に対応しました。
被管理サーバの IML に登録されたイベントを監視しアラートビューアに表示します。
- ・ アラートビューアにてソース毎に重要度を指定した該当アラートの非表示に対応しました。
- ・ Apache Struts 2 脆弱性を修正しました。

[Ver. 6.25]

- ・ iLO5 ファームウェア バージョン 1.20 に対応しました。
iLO5 ファームウェア バージョン 1.20 以降を搭載した MAGNIA を監視する場合は、ESMPRO/ServerManager Ver. 6.25 以降へアップデートする必要があります。
詳細は以下をご参照ください。
http://www.toshiba-sol.co.jp/pro/magnia/tech/esmpro_att.htm#esmsm-ilo

[Ver. 6.23]

- ・ 以下の修正パッチの内容を吸収しました。
http://magnia.toshiba-dme.co.jp/download/?action=DispInfo&dl_id=1677

※ Apache Struts2 の脆弱性(JVNVU#93610402)の対応

- ・ VMware ESXi 6.5 Update 1 の管理をサポートしました。
- ・ iLO を搭載した MAGNIA の管理をサポートしました。
- ・ 管理インターフェースとして、RESTful API を追加しました。

[Ver. 6.16]

- ・ VMware ESXi 6.5 の管理をサポートしました。
- ・ 多台数のサーバーの BMC を管理している場合に、CPU が高負荷になることがある問題を修正しました。
- ・ サーバーの自動登録に置いて、WS-Man の検索を「有効」にした場合、検索に時間がかかることがある問題を修正しました。

[Ver. 6.15]

- ・ Windows Server 2016 に対応しました。

[Ver.6.13]

- ・ WS-Man プロトコルによる、死活監視機能を追加しました。
- ・ リモート OS シャットダウンを実行した際、エラーが表示される場合がある問題を修正しました。
- ・ センサ状態の表示において、「現在のセンサ状態」が表示されない場合がある問題を修正しました。
- ・ SNMP 管理が未登録の場合でも、コンポーネント一覧の「SNMP コミュニティ名(取得用)」に "public" が表示される不具合を修正しました。
- ・ オペレーター権限を持つユーザが、自分自身のログインするときのパスワードを変更できない不具合を修正しました。
- ・ ESMPRO/ServerAgentService がインストールされたサーバーを監視した場合、ツリービューにサーバーの状態が反映されない場合がある不具合を修正しました。
- ・ 「アラート受信のみ管理」のコンポーネントが、他と重複した IP アドレスで登録できる問題を修正しました。

[Ver.6.08]

- ・ VMware ESXi 6 Update 2 の管理をサポートしました。

- ・ Ping による、BMC の死活監視機能を追加しました。
- ・ BMC 設定機能において、IPv6 アドレスを設定できるようにしました。
- ・ SEL 領域 Full 時の動作設定の既定値を、「SEL の記録停止」から「古い SEL を上書き」に変更しました。

[Ver.6.05]

- ・ Java 8 に対応しました。
- ・ ESMPRO/ServerAgentService Ver. 1.2 以降の、メモリ使用量の監視に対応しました。
 ※ 対応する ESMPRO/ServerAgentService は、以下からダウンロードできます。
http://magnia.toshiba-dme.co.jp/download/?action=DispInfo&dl_id=1425
- ・ VMware ESXi6 サーバーの管理をサポートしました。
- ・ 受信した最新のアラートがアラートビューアに表示されない場合がある不具合を修正しました。
- ・ アラートログ自動保存設定を変更した場合に、「保存ファイルの格納先」に "undefined" と表示される場合がある不具合を修正しました。
- ・ ESMPRO/ServerManager のサービス再起動や OS の再起動のタイミングで、アラートログ自動保存機能で保存していたアラートログファイルが、古い同名のアラートログファイルで書き戻されてしまう不具合を修正しました。
- ・ ESMPRO/ServerAgentService がインストールされており、かつ Universal RAID Utility がインストールされていない管理対象サーバーに対して自動登録を行った場合に、RAID 監視が有効になる不具合を修正しました。
- ・ アラートビューアの PET 通報の詳細情報において、ホスト名が空になる場合がある不具合を修正しました。
- ・ HTTPS 接続設定が有効の ESMPRO/ServerAgentService がインストールされた管理対象サーバーを自動登録で検索すると、ESMPRO/ServerAgentService が HTTPS 接続で登録できない場合がある不具合を修正しました。

[Ver.6.03]

- ・ アドレス範囲指定の自動発見にて、一部の IP アドレスが発見対象にならない不具合を修正しました。
- ・ VMware ESXi サーバーの監視時に、誤ったアプリケーションログが採取される場合がある不具合を修正しました。
- ・ 冗長電源に対応したサーバーの監視時に、構成情報ツリーが表示されない場合がある不具合を修正しました。

- ・ SNMP トラップ転送機能で転送したアラートの重要度が、常に「情報」となる不具合を修正しました。
- ・ アラートログ自動保存機能にて保存されていたアラート情報が、サービス再起動時に過去のアラート情報に上書きされてしまう不具合を修正しました。

[Ver.6.02]

- ・ 管理対象として、ESMPRO/ServerAgentService がインストールされたサーバーを追加しました。
(従来どおり、ESMPRO/ServerAgent がインストールされたサーバーも管理対象です。)
- ・ ESMPRO/ServerManager Ver.6.00 における以下の不具合を修正しました。
 - BMC からの PET 通報において、発生時刻の表示が不正になる場合がある。
 - 構成情報にて、ドライバー情報の表示が不正になる。
 - 構成情報にて、テープデバイス配下の SCSI 情報のアイコンが  となる。(上記は、Ver.6.00 固有の不具合であり、Ver.5 では発生しません。)

[商標および著作権]

- ・ ESMPRO、Universal RAID Utility (URU) は、日本電気株式会社の登録商標です。
- ・ Microsoft、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国および他の国における商標または登録商標です。
- ・ VMware は、米国およびその他の地域における VMware, Inc.の登録商標または商標です。
- ・ 記載の会社名および製品名は登録商標または商標として使用されている場合があります。

以上